日下菜穂子 KUSAKA Nahoko

専門は高齢者心理学。シニアから若者まで多様な人が協働することで「個の自立」と「社会の中での共生」を促す実践コミュニティに関する研究を行う。近年は、高齢期のライフデザインの発達支援プログラムの検討や、産学連携による高齢者の孤立防止の実証研究も行う。「ワンダフル・エイジング」「人生の意匠」等著書多数。博士（教育心理学）、臨床心理士、公認心理師。2022 年 4 月より、同志社女子大学現代社会学部現代社会学部長、国際社会システム研究科長。

©鈴木穣蔵

ヘレナ・ブル Helena BULL

マンチェスター・カメラータのコミュニティ・チームのシニア・プロジェクト・マネージャーとして、グレーター・マンチェスターおよび英国内の高齢者を対象とした様々な音楽と健康に関する活動を開発・提供している。コロナ禍には、介護者や医療専門家が認知症ケアの現場でインタラクティブな音楽づくりを行うための、音楽療法に基づいたオンライントレーニングプログラム「Music in Mind Remote」の開発に参画した。

©鈴木穣蔵

アミーナ・フサイン Amina HUSSAIN

マンチェスター市出身。チェルトナム音楽学校、英国王立ノーザン音楽大学修了。以来 20 年以上、欧州内の数々のオーケストラに客員フルート首席奏者として招かれている。これまでにキャサリーン・ジェンキンス、ガールズ・アラウド、アンドレア・ボチェッリ、エリザベス女王陛下 2 世等とも共演するなど、TV やラジオ出演、CD 収録等にも多数参加。現在、マンチェスター・カメラータ首席フルート奏者。近年、音楽療法士の資格を取得し、認知症、高齢者メンタルヘルス、発達障害を専門にした音楽療法士としても活動中。マンチェスター・カメラータの地域向けプログラムでも、音楽療法士として参加している。

©鈴木穣蔵

ナオミ・アタートン Naomi ATHERTON

英国王立ノーザン音楽大学修了。在学中に英国若手音楽家の登竜門BBC ヤングミュージシャン金管部門で優勝し、注目を集めた。ソリスト、室内楽奏者、客員首席奏者として活躍。これまでにロイヤル・フィルハーモニック管弦楽団や BBC フィルハーモニー、BBC プロムスなどの欧州各地のオーケストラやフェスティバルに招かれている。現在、マンチェスター・カメラータおよびノーザン室内楽団首席ホルン奏者。精力的な演奏活動の一方で、20 年以上、地域の音楽活動に専心しており、マンチェスター・カメラータの認知症対応プログラム「ミュージック・イン・マインド」は最も重要な仕事のひとつと考えている。

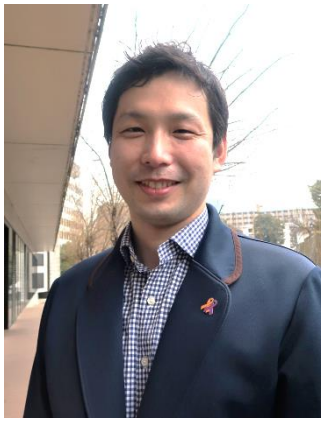
小川和代　OGAWA Kazuyo

大阪音楽大学、同大学大学院修士課程修了。ヴァイオリンを東儀　幸、稲庭　達、前橋汀子、R.キュッヒル、佐藤瑛里子、F.ガリミール各氏に師事。ニューヨークでのリサイタルが絶賛される。1989　年大阪センチュリー交響楽団（現日本センチュリー交響楽団）入団、現在に至る。ザ・シンフォニーホールチェンバーアンサンブルメンバー。演奏活動の傍ら、多様な市民との音楽活動にも取組んでいる。

名倉友紀　NAGURA Yuki

NPO 法人「オリーブの園」副理事（豊中市）

地域社会の課題解決や共生をめざし認知症介護・介護予防・就労支援・シルバーハウジング事業を展開する「NPO 法人オリーブの園」に 2001 年より勤務。認知症専門ケアに音楽を取り入れる等、医療福祉や地域交流分野で活動。介護人材育成にも携わる。相愛大学音楽学部専攻科音楽療法専攻卒。同大学音楽療法専攻非常勤講師。



川野圭一 KAWANO Keiichi

千代田区社会福祉協議会　活動推進課多世代交流担当。
2012 年に千代田区社会福祉協議会（または地域福祉課）に入職、20 年より多世代交流事業を担当。年間 1,000 人、ボランティア 150 人が参加する多世代交流プログラム「ちよだで多世代交流 Ciao!」の企画制作等を手掛ける。アートを通じた多世代交流によって、インクルーシブな居場所づくりに挑戦している。社会福祉士、公認心理師。

柿塚拓真 KAKITSUKA Takuma

相愛大学音楽学部卒業後、社会保険庁福岡社会保険事務局を経て大阪センチュリー交響楽団（現日本センチュリー交響楽団）事務局に入局。ブリティッシュ・カウンシル英国派遣プログラムや国際交流基金アジア・フェローシップを通じて、芸術団体と地域コミュニティの関わり方を考究する。クラシック音楽を介した就労支援事業「The Work」やオーケストラと高齢者をつなぐ「お茶の間オーケストラ」などを手掛ける。現在、豊中市立文化芸術センター非常勤事業プロデューサー、堺アーツカウンシル PO。公益財団法人神戸市民文化振興財団事業部演奏課（神戸市室内管弦楽団/神戸市混声合唱団）演奏担当課長。